2021年度特定研究奨励金 報告書

報告者所属・氏名

所属	文学部英文学科	氏名	金田　迪子

奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

2021 年度の科学研究費助成事業には、現代イギリスの女性劇作家キャリル・チャーチル（Caryl Churchill, 1938-）の 1990 年代以降の作品を対象に、「パフォーマンス的転回」と呼ばれる同時代の美学的な潮流の変化との関係を検討する研究課題を提出した。しかし評価結果では「①研究課題の学術的重要性」の不十分さが最も多く指摘された。このことから現状の研究課題には、研究内容の究明による学術的な貢献が一部の研究分野に限られるという問題があると考え、より広範に 1990 年代以降の現代演劇・パフォーマンス作品と「パフォーマンス的転回」の関わりという観点へと調査の対象を広げた研究に着手した。

その過程で、現代演劇・パフォーマンス研究の文脈で「パフォーマンス的転回」が指摘されている時期が、現代美術研究の文脈で「画像論的転回」が提唱される時期と重なることに着目した。「パフォーマンス的転回」では現代演劇と現代美術が相互に要素を取り込む 2 ジャンルの近接が指摘されていた。一方で「画像論的転回」は人文学分野に跨る思想潮流上の変化である「言語論的転回」を踏まえて提唱され、「画像論的転回」において言語がそうであったように、視覚的なものが今日の社会・文化において台頭し、人文学の諸分野における検討や考察の中心的な対象となったことを示す概念である。このことを踏まえ、対象となる 1990 年代以降に視覚文化が急速に存在感を増したことに分析の主眼を置く「画像論的転回」を研究の主軸とすることで、検討の対象を複数の演劇・パフォーマンス作品に拡大できると考えた。

その上で本研究活動では主に文献調査を行い、(1)「画像論的転回」に関する領域横断的な資料の収集と検討（2）視覚文化と演劇・パフォーマンスという観点に基づく 1990 年代前後の現代イギリス演劇の作品の調査を行った。その結果、チャーチルを含む 1990 年代以降の複数の劇作家の作品を対象とする研究へと課題の規模を拡大することができた。